

CNEAS



2026年度版

センター長 高倉 浩樹



東北アジア研究を取り巻く状況は、いま大きな転換点を迎えている。これまで私たちは、ロシア・中国・日本にまたがる環境問題の解決や経済交流の促進に資する学際的知識の創出を主要な課題としてきた。しかし現在、この地域の対立・紛争・戦争の起源を見据え、その対応と解決の道筋を探る研究こそが、より切実なテーマとなりつつある。これは各分野の方法論だけでなく、学際的研究の枠組みそのものを問い直す契機となるだろう。

その背景には、2022年のロシアによるウクライナ侵攻がもたらした世界的な構造変動がある。対立のグローバリズムが進行し、欧米諸国の制裁とロシアの反発は固定化した。外交・経済・学術交流は大きく制限され、世界各地で紛争が顕在化している。国際協力を前提としてきた多くの研究領域が、根本的な見直しを迫られている。

私自身が関わってきた北極研究もその一つである。冷戦崩壊後に成立した国際協力体制のもと、自然科学と人文・社会科学が協働し、気候変動の影響評価を進めてきた。しかし2022年以降、北極は二極化し、従来の協力体制の復活は困難となった。安全保障や政治社会的課題が前面に出るなか、研究の方法も目的も変容を余儀なくされている。

東北アジア研究センターもまた、冷戦後の旧ソ連との交流開始を背景に1996年に発足した。ロシアや中国が権威主義国家として認識されるようになった現在、隣国理解としての研究は、私たち自身の課題として一層重みを増している。これからの東北アジア研究には、この地域の平和共存に資する知識を学際的に掘り起こし、社会に提示していく使命がある。

当センターの強みは、人文・社会・自然科学の研究者が文理を超えて協働し、国際的にも注目される成果を挙げてきた点にある。この基盤を生かし、私たちは新しい東北アジア研究を切り拓いていきたい。

概要図

環境と文明の相互作用という視点からの新しい地域研究

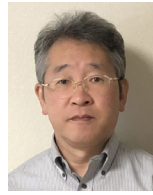
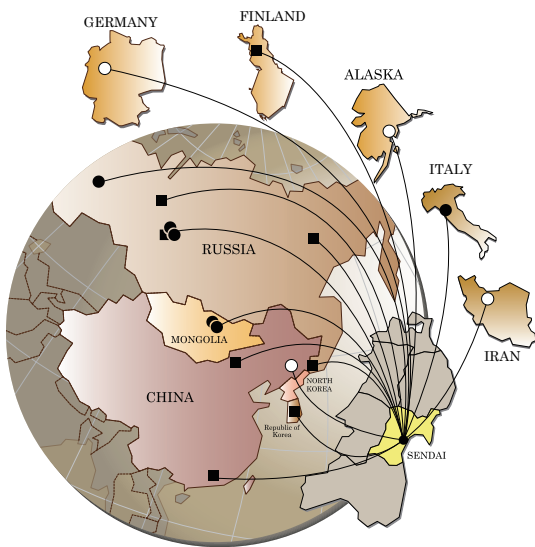
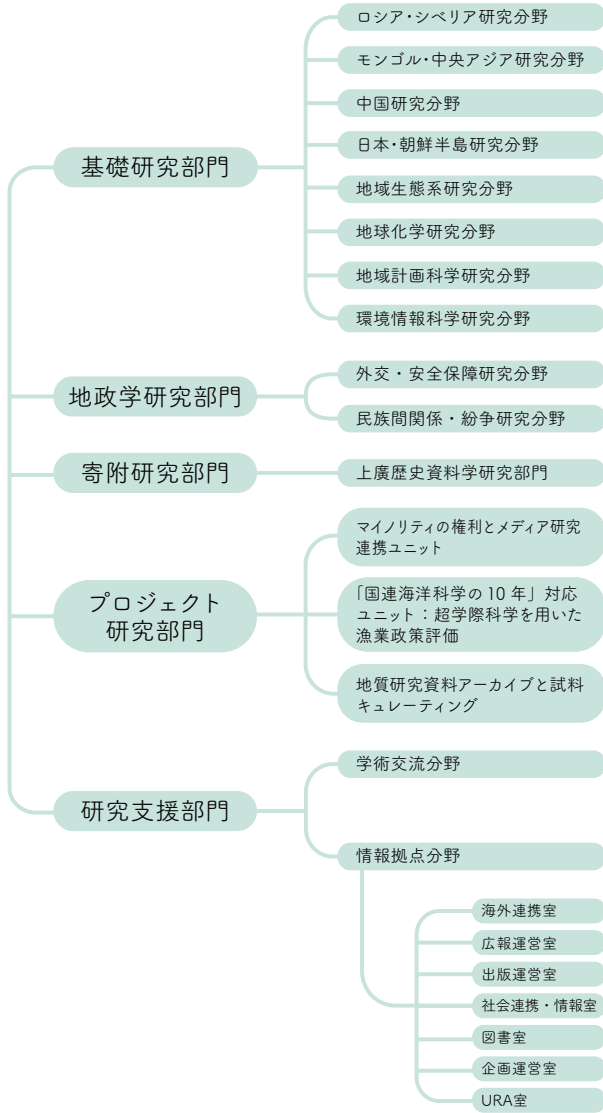


人類史的なタイムスケールによる地域理解

大国の統治と民族の多様性からみる地域

越境する多様な問題の理解と共有

文理融合・学際研究



寺山 恭輔 教授

ロシア・シベリア研究分野
ロシア・ソ連史
日露・日ソ関係史

- スターリン時代を中心とするソ連政治史の研究
- 日ソ関係の研究
- ロシア・ソ連国境における民族政策（フィンランド、ポーランド、シベリア、極東等）に関する研究
- プーチン時代を中心とする現代ロシア政治に関する研究
- ロシア、ソ連の検閲に関する研究



高倉 浩樹 教授

ロシア・シベリア研究分野
社会人類学
シベリア民族誌学

- 極狩猟牧畜の生態人類学的研究
- 映像・展示を用いた公共人類学
- スラブ・ユーラシア世界におけるナショナリズムと先住民運動
- サハ人の歴史と文化についての民族学的研究
- 環オホーツク海域の歴史人類学
- ロシアと日本の人類学史



パホモフ・オレグ 助教

ロシア・シベリア研究分野
社会人類学

- ロシア史
- 東北アジア史
- 比較政治学



佐野 勝宏 教授

モンゴル・中央アジア研究分野
先史考古学
実験考古学

- 人類の進化史
- ホモ・サピエンスの東北アジアへの拡散
- 狩猟具の投射技術の発達
- 実験痕跡研究





上野 稔弘 准教授

中国研究分野
中国現代史
中国民族学

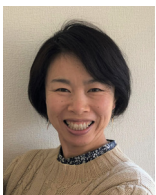
- ・中国近現代の国民国家建設過程における民族統合問題の研究
- ・中国における民族関係の形成とその変遷の研究
- ・東北アジア地域における諸民族の社会的動態とその民族的アイデンティティの研究



程 永超 准教授

日本・朝鮮半島研究分野
日本近世対外関係史
東アジア国際関係史

- ・朝鮮・対馬経由の中国情報分析
- ・通信使・燕行使から再構築する東アジアのなかの近世日本
- ・16～19世紀東アジア国際秩序の成立と変容の研究
- ・通信使と訳官使の統合的研究
- ・歴史史料から発く過去の天文現象



石井 弓 准教授

中国研究分野
中国地域研究、中国近現代史
オーラルヒストリー、華北農村コミュニティ、東西交流史

- ・戦争の集合的記憶
- ・中国農村の地域社会とそのレジリエンス
- ・物語から読み解く東西交流史



高城 建人 准教授

日本・朝鮮半島研究分野
韓国政治史
韓国政治思想史
日韓関係史

- ・現代韓国における反共主義教育に関する研究
- ・1950年代韓国政府と韓国メディアによる「韓国国民」形成の試みに関する研究
- ・現代韓国における民主主義の定着に関する研究
- ・民主化以前(1948年～1987年)の韓国野党に関する研究



デレーニ・アリーン 教授

日本・朝鮮半島研究分野
文化人類学、日本民族誌、沿岸文化

- ・日本を含む沿岸文化の環境人類学
- ・社会的持続可能性と地域社会のレジリエンス
- ・天然資源管理とガバナンス
- ・災害人類学(例:3.11)
- ・映像人類学
- ・無形文化遺産



宮本 毅 助教

日本・朝鮮半島研究分野
火山岩岩石学、火山地質学

- ・白頭山10世紀巨大噴火の噴火推移の解明
- ・白頭山の過去数千年間の噴火史の再検討
- ・火山噴火と火山伝承に関する研究
- ・島弧火山(日本地域)におけるマグマ発達史



石井 敦 准教授

日本・朝鮮半島研究分野
国際関係論
科学技術社会学

- ・北朝鮮の環境問題
- ・科学技術社会学と国際関係論の融合(外交科学)
- ・炭素隔離技術の社会的側面
- ・越境性酸性雨問題における国際交渉・環境協力(欧米アジア)
- ・国際環境レジームにおける科学アセスメント
- ・国際漁業資源ガバナンス

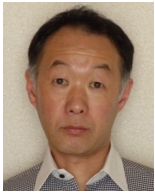


平野 直人 教授

地球化学研究分野
海洋底科学、テクトニクス、地質年代学、岩石火山学

- ・海底火山および付加体中の火山岩の成因解明
- ・新種の火山・プテスポットの二酸化炭素放出量
- ・新種の火山・プテスポットの世界的普遍性
- ・西太平洋プレート上の海山群の形成史





後藤 章夫 助教

地球化学研究分野
火山物理学
マグマ物性

- ・ マグマの物理的性質の測定
- ・ 火口湖の活動調査



朴 歆 特任助教

マイノリティの権利とメディア研究
連携ユニット
文化人類学、地域研究

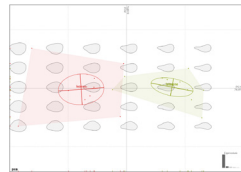
- ・ 中朝・中露国境におけるトランスナショナルな実践とネットワーク
- ・ トランスナショナルな社会空間の構築と生活世界の再編
- ・ 国境を越える多元的生活実践とアイデンティティ



田村 光平 准教授

環境情報科学研究分野
人類学
文化進化

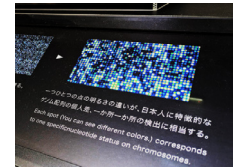
- ・ ヒト特異的とされる行動の進化の数理モデリング
- ・ 文化現象のデータ解析
- ・ 人類史研究のための研究基盤構築
- ・ 学術・地域資料の保全・活用と展示の実践



石井 花織 特任講師

情報拠点分野 URA 室
文化人類学
科学技術社会論

- ・ 人の多様性の科学的表象と社会との関連
- ・ 北極地域研究
- ・ 研究倫理（対象および実践）
- ・ 科学コミュニケーション



寺内 由佳 助教

上廣歴史資料学研究部門
日本近世史、都市史、都市社会史、流通史

- ・ 近世における衣料品（絹・木綿織物、古着）の流通構造
- ・ 商人による社会集団（仲間、「イエ」・同族団）の形成とその機能
- ・ 三都および近江の商人による関東・奥州進出



■ 客員教授

地政学研究部門

- 外交・安全保障研究分野 兵頭慎治
民族間関係・紛争研究分野 アンダーソン・デビッド・ジョージ

■ 学術研究員

上廣歴史資料学研究部門

鈴木淳世、石川光年

情報拠点分野 企画運営室

張小栄



伴野 文亮 准教授

TOMONO Fumiaki

日本・朝鮮半島研究分野
日本近現代史

- ・金原明善の思想と行動、および「偉人」として顕彰された実態とその社会的影響
- ・俳諧「旧派」の俳諧実践とネットワーク
- ・地域の文化実践と天皇制イデオロギーの関係性
- ・近現代の鹿児島における地域史



包 双月 助教

BAO Shuangyue

情報拠点分野 海外連携室
文化人類学、モンゴル研究

- ・遊牧から定住農耕化したモンゴル人についての人類学的研究
- ・牧畜の商業化に関する人類学的分析
- ・中国系移民の移動メカニズムを解明に関する研究



研究活動

プロジェクト研究（2025年度）

共同研究よりも規模が大きく、比較的長期の研究期間で行われるのが「プロジェクト研究」で、そのための特別のユニットが形成されます。

- マイノリティの権利とメディア研究連携ユニット（2022年－2027年）代表：高倉浩樹
- 「国連海洋科学の10年」対応ユニット：超学際科学を用いた漁業政策評価（2023年－2025年）代表：石井敦
- 地質研究資料アーカイブと試料キュレーティング（2023年～2025年）代表：平野直人

共同研究（2025年度）

本センターは、日本とロシア・中国・モンゴル・コリアを含む東北アジアを対象に、文理融合の強みを生かして共同研究を進めています。地域特性から生じる独自の課題を、30年の蓄積を踏まえて以下の研究群に取り組んでいます。

研究領域	期 間	研究タイトル	代表者
環境問題と自然災害	2023-2025	鳴子火山火口湖・湯沼の火山活動調査	後藤 章夫
移民・物流・文化交流の動態	2024-2026	琉球列島における先史時代のヒトと文化の越境	佐野 勝宏
	2024-2026	ムスリムの移動と文化の様態 —現代中国におけるムスリムマイノリティ流動人口研究—	志宝 ありむとふて
	2025-2026	東北アジアにおける経済回廊構想と辺境住民：国境貿易に注目した人類学的研究	寺尾 萌
	2025-2026	「よそ者」は地域のウェルビーイングを高めるか：地方に暮らす外国人住民に着目して	膝 媛媛
自然・文化遺産の保全と継承	2024-2025	ポスト・ソ連ウズベキスタンの写真記録のデジタルアーカイブ化	磯貝 真澄
	2024-2026	多角的な手法による地域文化研究：宮城県七ヶ浜町の事例	デレーニ・アリーン
	2025-2025	韓国の陸産貝類の種多様性・独自性に関する研究	木村 一貴
紛争と共生をめぐる歴史と政治	2023-2026	戦争記憶の国際的比較研究	石井 弓
	2023-2025	ウクライナ侵攻後のロシアからの大量出国とモンゴルにおける民族間関係	高倉 浩樹
	2024-2025	沖縄の戦没者祭祀の位相に関する人類学的研究：家における祭祀を事例に	越智 郁乃
	2025-2026	日本の植民地「支配現場」における主体性の研究	張 小栄

東北アジア研究談話会

毎月一回、コーヒー・お茶を飲みながら研究発表を聞き、センター内研究交流・親睦を深めるとともに、共同研究等の企画着想の機会を提供しています。客員教授などのゲストの発表も含まれます。



東北アジア研究センター研究成果報告会

年に一度、ユニット事業・共同研究・公募型共同研究・個人研究の進捗状況について、口頭報告またはポスター報告の形式で発表を行います。センター内外の研究者が交流し、研究内容を共有することで、センターの研究の拡張性と連携性を高めることを目的としています。



■東北アジア研究

東北アジア研究の発展に貢献することを目的とした査読制学術雑誌。1996年創刊。



- 第30号(2026年)目次
- 論文
北方系細石刃石器群の石器機能研究—山形県大石田町角二山遺跡 2017-2020 年度出土資料を中心に【崔 笑宇】
- 研究ノート
シベリア鉄道軍事化の背景【寺山 恭輔】

○資料

Bronze artifacts from the Bayankhongor Province Museum, Mongolia【MATSUMOTO Keita, AMGALANTUGS Tsend, ISHTSEREN Lochin】

○書評

TAKAKURA Hiroki『Anthropology and Disaster in Japan. Cultural Contributions to Recovery after the 2011 Earthquake and Tsunami』London and New York: Routledge, 2023, 116 pages【Julia GERSTER】

DELANEY, Alyne E.『Life Beyond the Tōhoku Disasters. Autonomy and Adaptability in Coastal Japan』Lanham: Lexington Books, 2024, 197 pages【Julia GERSTER】

千葉聡『歌うカタツムリ—進化とらせんの物語』東京: 岩波書店、2017年、206頁【三浦 収】

瀬川昌久『華南—広東・海南の文化的多様性とエスニシティ』風響社、2022年、272頁【稲澤 努】

瀬川昌久『祖先の威光のもとで—宗族研究の総括と展望』仙台: 東北大学東北アジア研究センター、2022年、300頁〔長沼 さやか 熊倉潤『新疆ウイグル自治区—中国共産党支配の70年—』東京: 中央公論新社、2022年、vi+252頁【ウマル・イザティ】

李善姬(編集)、高倉浩樹(編集)『災害〈後〉を生きる—慰霊と回復の災害人文学』新泉社、2023年、280頁【千葉 直美】

根本みなみ『家からみる江戸大名 毛利家 萩藩』吉川弘文館、2023年、196頁【清水 翔太郎】

荒武賢一朗・野本禎司編『仙台藩の組織と政策』岩田書院、2025年、256頁【高野 信治】

○投稿規程・執筆要領

■東北アジア研究センター叢書

東北アジア研究センターの共同研究や個人研究の成果に関する出版物。

●第78号

岡洋樹、中村篤志、佐藤憲行〔共編〕『清代モンゴル社会における秩序』2026



●第77号

荒武賢一朗〔著〕、岩出山古文書を読む会〔編〕『吾妻家文書を読む第二集—近世武士の由緒と戊辰戦争—』2025



■東北アジア研究専書

専門家・知識層や大学生等を対象にした東北アジアの地域研究に関わる市販の学術専門書。2012年創刊

●第37号

岡洋樹〔著〕『清朝期のモンゴル—その統治と人の移動』(藤原書店、2026)

●第36号

高倉浩樹〔編〕『海からみた北極域—グローバル化する先住民社会と地域社会』新泉社、2026



●第35号

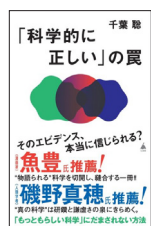
高倉浩樹〔著〕『シベリア3万年の人類史—寒冷地適応からウクライナ戦争まで』平凡社、2025

●第34号

Florian Stammler, Hiroki Takakura. *The benefits of the cold and domestication: a new understanding of human - animal partnerships for thriving in extreme environments.* Routledge. 2025

■その他の著書

●千葉聡『科学的に正しいの罨』SBクリエイティブ、2025年



●田村光平(分担執筆)第2章「人類史から見た知能」『知能とは何だろうか—5つの視点から考える』新曜社、2025年

●Michael Knüppel, Pakhomov Oleg, Gesia Gelfman. *Biographical material and characterisation.* BoD - Books on Demand. 2025. 188頁



●千葉聡『進化という迷宮』講談社、2025年

■ 論文

- Saunavaara J, Lomaeva M, Takakura H, Ohnishi F. Japan's Engagement with the Arctic after Russia's Invasion of Ukraine. In: Dervovic M, Ulatowski L, Kirchner S, eds. Arctic Policies of Non-Arctic States. Brill; 2025:101–125 頁。
- Stammler, F., Takakura H. Introduction: The Benefits of the Cold and Domestication: A New Understanding of Human-Animal Partnerships for Thriving in Extreme Environments. In: Stammler F, Takakura H, eds. The Benefits of the Cold and Domestication: A New Understanding of Human-Animal Partnerships for Thriving in Extreme Environments. Routledge; 2025: 1–15 頁。
- Takakura, H. The North as a Space for Innovation in Human-Animal-Environment Adaptation. In: Stammler F, Takakura H, eds. The Benefits of the Cold and Domestication: A New Understanding of Human-Animal Partnerships for Thriving in Extreme Environments. London: Routledge; 2025:19–36 頁。
- Stammler F, Takakura H, eds. The Benefits of the Cold and Domestication: A New Understanding of Human-Animal Partnerships for Survival in Extreme Environments. CiNii Books; 2025. 390 頁。
- 石井弓「中国における戦争記憶の世代間継承」『日本オーラルヒストリー研究』21 巻、2025 年、18–37 頁。
- 北村毅・中尾知代・中村江里・石井弓「【座談会】世代を超える戦争の記憶」『日本オーラルヒストリー研究』21 巻、2025 年、54–74 頁。
- 程永超「에도시대 한일관계사 연구의 틀에 대한 재검토 — 근세 조선・중국・일본 삼국관계사에 대한 하나의 시도 (江戸時代日朝關係史研究の枠組みに対する再考—近世日本・朝鮮・中国三国關係史への一試み)」『韓国学研究』79 号、2025 107–157 頁。
- 程永超「一七世紀における対馬藩の大陸情報収集活動と訳官使」池内敏編『鎖国日本の社会と外交：人びとの近世史』吉川弘文館、2025 年、51–76 頁。
- 程永超「朝鮮通信使相關的倭情咨文與明清中國」復旦文史研究院編『朝鮮通信使與東亞文化交流』中華書局、2025 年、109–136 頁。
- 高城建人「李承晩政権と民主主義：韓国の民主主義におけるターニングポイント」韓京洙・中戸祐夫・生駒智一編『現代韓国の軌跡：政治・社会・国際關係』晃洋書房、2025 年、85–102 頁。
- Saito T, Sawada N, Ye B, Akiyama K, Hirano T, Kimura S, Chiba S, Fukuda H. Two introduced bithyniid species previously attributed to *Parafossarulus* Annandale, 1924 (= *Pseudovivipara* Annandale, 1918; Caenogastropoda: Truncatelloidea) from China into Japan—Their identifications, anatomical redescriptions and genetic status. *Malacologia*.
- Saito T, Ishii Y, Ito S, Linsco T, Ye B, Tu D, Shariar S, Prozorova L, Surenkhorloo P, Shau A, Tan H, Fujino Y, Uechi T, Uchida S,

- Yamazaki D, Morii Y, Kimura K, Fukuda H, Miura O, Hirano T, Chiba S. The nature of oceanic dispersal in the diversification process on insular systems in Asia. *Global Ecology and Biogeography*. 2025;34:e70114.
- Kimura K, Chiba S. Punctoidea, Discoidea or Limacoidei? Taxonomic position of the genus *Hirasea* Pilsbry, 1902 endemic to the oceanic Ogasawara Islands, with a preliminary note on its relationship with Japanese mainland taxa. *Folia Malacologica*. 2025;33:204–212.
- Ishii Y, Ito S, Kameda Y, Takano T, Waki T, Chiba S, Hirano T. Reticulate evolution in terrestrial snails of *Euhadra peliomphala* species complex. *Molecular Phylogenetics and Evolution*. 2025; [108437].
- Ishii Y, Toyoda A, Lewis A, Davison A, Miura O, Kimura K, Chiba S. Chromosome-level genome assembly of the Asian tramp snail *Bradybaena similaris* (Stylommatophora: Camaenidae). *Genome Biology and Evolution*. 2025;17 頁。
- Machida S, Kaneko J, Inose K, Nozaki T, Iijima K, Hirano N. Integrated acoustic identification of a petit-spot volcanic field in the oldest Pacific plate. *Scientific Reports*. 2025;15:32378.
- Azami K, Fujinaga K, Hirano N, Kato Y. Origin of ferromanganese deposits in the Jurassic to Cretaceous accretionary complex: Implications for the deep-sea environment around ocean anoxic events. *Ore Geology Reviews*. 2025;182:106661.
- Mikuni K, Hirano N, Machida S, Akizawa N, Yoneda S, Tamura A, Mizukami T, Kato Y, Morishita T. Intact Pacific oceanic crust captured as mafic xenoliths in a petit-spot volcano. *Marine Geology*. 2025;483:107497.
- Nakao H, Kaneda A, Tamura K, Noshita K, Yoshida M, Nakagawa T. Population interaction in the Jōmon society via three-dimensional data of human crania: Geometric morphometric study. *JMIRx Bio*. 2025;Nov.
- Bessho-Uehara K, Takara R, Sano K, Tamura K. Plant organ modulates morphological constraints of insect-induced galls: evidence from citizen science data. *Scientific Reports*. 2025;15(1)
- 荒武賢一朗「近世日本の領主財政と行政組織」谷本雅之編『生活存立の比較史：家政・市場・財政』東京大学出版会、2025 年、59–91 頁。
- 荒武賢一朗「都市生活インフラについて：水道敷設と尿処理」谷本雅之編『生活存立の比較史：家政・市場・財政』東京大学出版会、2025 年、269–293 頁。
- 寺内由佳「安永期における大坂木綿仲間」『日本歴史』926 号、2025 年、74–82 頁。

■ プレスリリース

公表日	教員名	タイトル
2025.05.14	平野直人	前期白亜紀の海洋無酸素事変は遠洋の深海域まで及んでいなかった事を解明—海洋無酸素事変の規模見直しを迫る成果—

■ 受賞

受賞年月	受賞者名	タイトル
2025.12.20	高城建人 (准教授)	比較文明学会研究奨励賞 (伊東俊太郎賞) 「『韓国黎明期の民主政治への試み：大統領制と議院内閣制の攻防』(明石書店)」
2025.12.12	朴歆 (学術研究員)	第 15 回東北大学若手研究者アンサンブルワークショップ優秀講演賞
2025.6.24	千葉聡 (教授)	日本進化学会学会賞・木村資生記念学術賞

教育

■全学教育

学部生向けの全学教育に関わり、広い意味での東北アジア研究に必要な基盤分野の教育を行っています。年度によって変更する場合があります。

学問論、歴史学、文化人類学、国際事情、地球物質科学、自然科学総合実験、東北アジア地域研究入門
外国語：ロシア語、中国語

■大学院教育

東北アジア研究の次世代育成に向けて、本センターは協力教員・協力講座として大学院教育を積極的に支えてきました。大学院生は東北大学内外、国内外の多様な大学から進学し、社会人院生も含まれます。所属研究科はそれぞれ異なりますが、研究室はセンター内に置かれ、研究科の枠を越えた交流が可能です。教員が関わる大学院は下記の通りです。

文学研究科

- ・日本学専攻考古学専攻分野
- ・広域文化学専攻西洋史専攻分野

理学研究科

- ・地殻化学講座

生命科学研究科

- ・多様性ダイナミクス講座生物多様性保全分野
- ・人類進化分野

環境科学研究科

- 多元社会環境史論分野
- 文化生態保全学分野
- 環境ガバナンス論分野
- 文化進化研究分野
- 記憶社会動態論分野科目

公開プログラム

■社会貢献活動

市民の皆様への成果還元を目的として、公開講演会を開催しています。また、センターが開催する学術シンポジウムも公開しています。

2025年度

- 東北大学東北アジア研究センター国際シンポジウム「東アジアにおけるウナギの保全と持続可能な利用」(2025.9.7)



- 東北大学附置研究所等一般公開「片平まつり2025」～もっと知りたくない? 私たちの東北アジア～ (2025.10.11)



- 東北大学東北アジア研究センター講演会 | 東北大学全学教育「東北アジア地域研究入門」特別授業「ロシア・ウクライナ戦争と地域研究」(2025.12.5)



- オンライン** 読売調査研究機構・連携講座 東北大学東北アジア研究センター×大手町アカデミア「科学と社会を架橋する～ニホンウナギの資源管理を対象とした科学アセスメントのすゝめ～」(2026.1.15 ライブ配信) <https://youtu.be/MrTjyz2faYs?si=3P6-aHKRfviQwLmR>
読売調査研究機構 (<https://www.youtube.com/@読売調査研究機構-k1u>)

動画へのアクセスはこちら



東北大学東北アジア研究センター
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41
TEL 022-795-6009 FAX 022-795-6010
<http://www.cneas.tohoku.ac.jp>



東北アジア地域平和基金

東北アジア地域研究の世界的拠点としての研究力強化、人材育成、社会貢献活動などに活用させていただきます。

詳しい情報はこちらからご覧ください

